

人文学部 前期日程 令和8年度入学試験 総合問題
出題意図と解答例

I

【出題意図】

条件を組み合わせて確率の導出過程を論理的に追って結論に到達できるか、という論理的思考力を問う問題である。

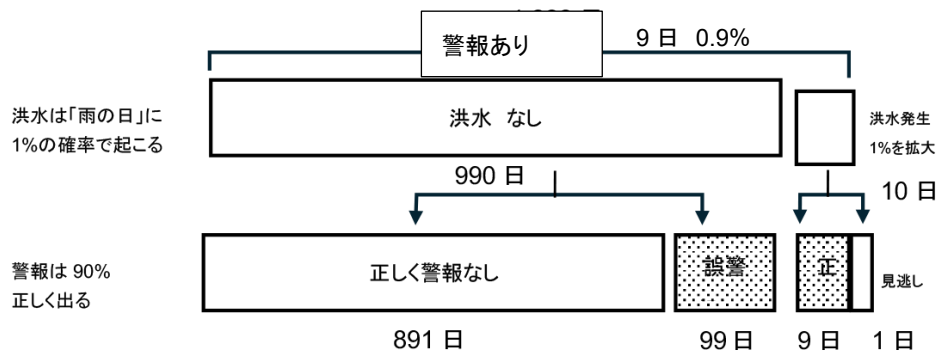
【解答例】

問1 $a/(a+c) \times 100$

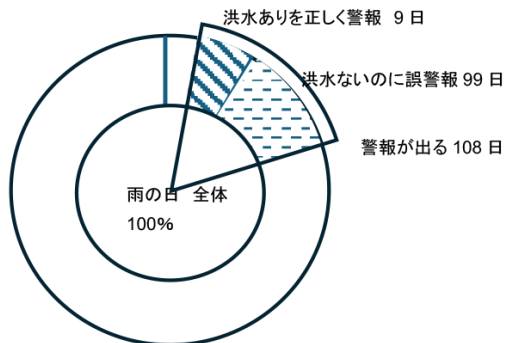
問2 8.3

問3

解答例 1

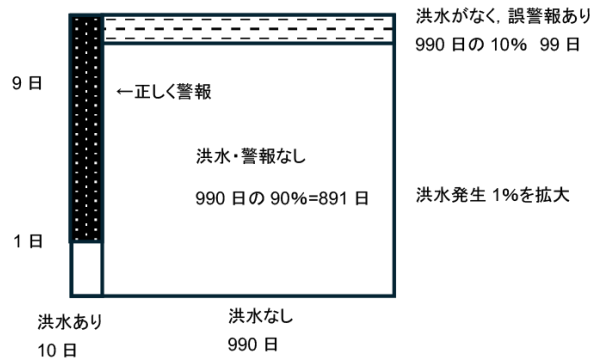


解答例 2

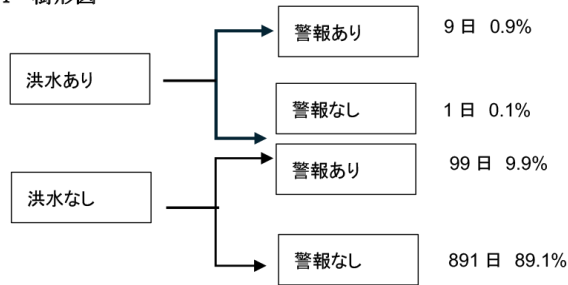


「警報があった日」は塗りつぶしの部分 108 日。
そのうち「本当に洪水発生」は 9 日
求める確率は $(9/(99+9))$

解答例 3



解答例 4 樹形図



問 4

もし新システムが存在しない場合は、雨の日に洪水が発生する確率は 1%という情報しかない。一方、システムが警報を出した場合の洪水確率は 8.3%で約 8 倍にもなるので、その危険性が高いことを強調できる(98 字)

問5

一般的に的中確率が高い予測は信頼できると考える。しかし、確率は低くてもその対象が多いと、現実には頻繁に観察できることに人は気がつかない。例題では、警報が誤る確率は 10%と低い「洪水がない日」が多いために誤警報は頻繁に見られる。確率の値だけで直観的に判断するとリスクを読み間違える可能性がある。(146 字)

Ⅱ

【出題意図】

意味を正しく読み取る英文読解力、適切に内容を説明する力、文章を参考にして論理的に述べる思考力、表現力を試す問題である。

【解答例】

問1

真偽の入り混じった情報がソーシャルメディアを通じて過剰に広がる現象。信頼できる指針を見つけにくくなるため、意思決定や勧告の遵守が難しくなり、不安が助長され、精神疾患の危険性が高まる。(91 字)

問2

不十分な情報伝達は人々の懸念を増幅させ、集団の二極化や当局と大衆の相互不信を招く。一方で、効果的なリスク・コミュニケーションは、健康上の脅威への理解を深め、リスク軽減のために、十分な情報に基づく意思決定を可能にするうえで重要である。(116 字)

問3

EPI-WIN は「知識の単純化」を掲げ、知識を実行可能で、行動の変化に結び付く内容へと変換することを戦略としている。(アルファベット 2 字を 1 字換算として 58 字)

問4

(1) 利用可能な (2)信頼できる (3) 役に立つ (4)実行可能な (5) 受け入れられる (6) 包括

的な(7) 一貫している(8)理解可能な(9)持続的な行動の変化を促す

選択した3つの番号が(2),(4),(9)の場合

まず、「信頼できる」情報の発信は、人々が適切に対応するうえで必要となる。また、どんなに良い提案であっても、現実的でなければ実行に移せず、意味を持たないため、「実行可能」であることが重要である。最後に、「行動の持続」を促すことは、感染症対策のように長期的な対策が必要となる場面で不可欠である。これら3点がそろってはじめて、混乱を収め、人々が安心して行動に移れる環境が整うのだと考える。(191字)

Ⅲ

【出題意図】

作者の意図を正確に読み取り、それを適確に表現することができるか、またそれを自らに引きつけて考えることができるかを問う問題である。

【解答例】

問1

「死はたしかにやってくる」が、それは未来であって、「今ではない」。だから、「未来の死」のために「今の生」を犠牲にし、「死」に至る道筋のなかで「生」のあり方を調整していこうとする発想は間違っている。(98字)

問2

リスクという名の可能性を提示された患者は、自分の目の前に示されているいくつかの分岐ルートの中から、「普通に生きてゆける」ルートを選ぼうとしがちである。しかし、分岐ルートのいずれかを選ぶとは、一本の道を選ぶことではなく、新しい無数に開かれた可能性の全体に入ってゆくことでしかないのだから、細分化された可能性のなかで人生のほとんどが決まってしまうように思い込んでしまうのは「変」である。(195字)

問3

解答例1

「未来とはそうした可能性もふくんだまるっとした総体なのであって、私たちは、一本の道の先だけを生きているのではない」という作者の主張に従い、常に「安全策」を取り続けるのではなく、自分のやりたいことと危険の可能性とをそのつど見比べながら、可能な限りやりたいことをやるようになる。(137字)

解答例2

「私たちは、一本の道の先だけを生きているのではない」という作者の主張に従いつつ、「新しい無数に開かれた可能性の全体」のなかから、「普通に生きてゆける」ルート」を探して、そこを優先的に進んでいき、自分のやりたいことは相変わらず後回しにして生きていきたい。(127字)

Ⅳ

【出題意図】

ここでは、Ⅰ Ⅱ Ⅲの文章をあらためて読み直し、共通する課題を見いだすことが求められている。性質の大きく異なる資料群のなかから、適確に課題を摘出し、自らの問題意識と重ね合わせながらそれを論じる力があるかどうかを試す問題である。問題の性質上、「解答例」「模範解答」を示すことは差し控えたいが、「確率的な予測と人の直観や認知の傾向性の関係」「情報の正誤判断だけでなく、適切なコミュニケーションが重要であること」「リスクという可能性の一つを選ぶことの意味」について適確に理解したうえで、「リスクマネジメント／リスクコミュニケーション」という観点から、具体的で説得力のある論述を展開することができているかどうか問われている。